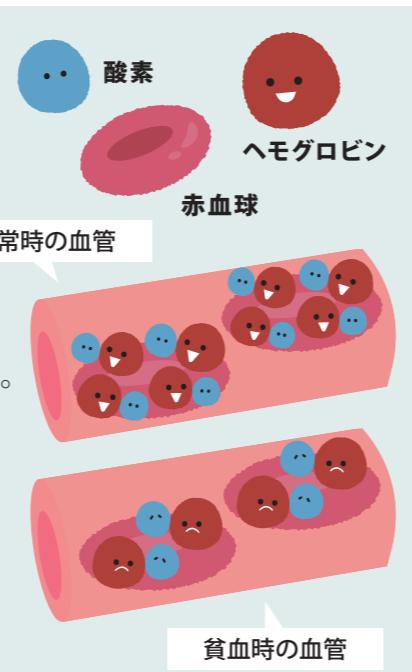


ご自由にお持ち帰りください

“貧血の種類”

- 鉄欠乏性貧血… 貧血のほとんどを占め、鉄不足により、ヘモグロビンの合成が低下して起こる。女性に多く見られる。
- 溶血性貧血… 赤血球の破壊によって起こる貧血。
- 再生不良性貧血… 骨髄の造血幹細胞機能不全により、血液をつくることができなくなつて起こる貧血。
- 巨赤芽球性貧血… ビタミンB12または葉酸の不足により、赤血球の増殖に異常をきたして起こる貧血。



K-style

川崎医科大学附属病院 広報誌

貧血

- [特集] 貧血
- ・診療科紹介 乳腺甲状腺外科
 - ・「地域のかかりつけ医」を持ちましょう
 - ・イベントのご案内
 - ・貧血の治療・注意点について
 - ・連携医療機関のご案内
 - ・次号予告

50th Anniversary
Kawasaki Gakuen
since 1970

Vol. 60

2019秋号

今号
特集

貧血

貧血の基礎知識



貧血とは、皆さんが普段受けている血液検査で、ヘモグロビン濃度が基準値より下回っている場合をいいます。具体的には、成人男性で13g/dL未満、成人女性で12g/dL未満、妊婦さんや高齢者では11g/dL未満が目安と考えていいでしょう。よって、皆さんがイメージされることが多い「目の前が暗くなつて、気分が悪くなつて倒れそうになる」といった症状は、必ずしも貧血とはいえないのです。この症状は、医学的には「神経調節性失神」である場合が多く、時に「脳貧血」と呼ばれることがあるようです。また、貧血というと病名になつてしまいです。すなわち貧血の背景には、必ず何らかの疾患があり、その原因疾患を見つけ出しが、貧血の診療において最も重要なポイントとなります。

診察では、「あつかんべー」をするような動作で眼瞼結膜を確認して貧血であるかを診ることがあります。内科診断学の基本ではありますが、やはり貧血の診断には、採血をして血液検査を受けることが必要です。

貧血チェックリスト

- よくめまいや立ちくらみがする
- 顔色が悪いとよくいわれる
- 過去に貧血と診断されたことがある
- なんとなく体がだるい
- 爪の色が白っぽく、割れたり欠けやすい
- 朝からなかなか起きれないことがある
- 坂道や階段で、動悸・息切れがする
- 頭痛を感じることが多い
- 口内炎ができやすい
- 首、肩が凝りやすい



当てはまる項目が多いほど貧血のリスクが高いと考えられます。早めに医療機関などで相談ください。

成人女性に多い鉄欠乏性貧血

成人の貧血として最もよくみられる疾患が、鉄欠乏性貧血です。他の貧血と比べて比較的特徴のある症状をあげると、朝に酷く夕方からよくなる倦怠感や脱力感、冬なのに冷たいものが欲しくなる、脚がむずむずする、などがあります。成人男性の鉄の必要量は1日1mgですが、成人女性は月経、あるいは妊娠・分娩・出産というライフイベントに伴い、男性よりも多くの鉄をとることが必要です。たとえば、月経のある女性では、経血により0.5~0.8mg/日に相当する鉄を喪失していることになりますので、その分鉄を多く摂取しないとやがて鉄欠乏になってしまいます。鉄欠乏が進行し、ひとたび鉄欠乏性貧血に陥ると食事だけでは容易には回復できず、鉄剤の内服投与が必要になります。血液検査では、鉄欠乏性貧血になる前の段階である鉄欠乏状態を、血清フェリチンを測定することで発見できます。

貧血の様々な原因

1個の赤血球は、寿命である120日の間に血管内を500km旅して、心臓から全身を17万回循環するといわれています。赤血球の中身の約9割はヘモグロビンで、ヘモグロビンに結合した酸素を全身に届ける役割をしています。このヘモグロビン濃度が低下するのが貧血で、原因として鉄欠乏性貧血が一番多いことをお話ししてきました。しかし、貧血の原因は鉄欠乏以外にもたくさんあります。簡単にお話をしますと、輸血を必要としない貧血と、輸血が必要で血液内科での専門的な治療が欠かせない貧血に分かれます。

まず、輸血を必要としない貧血の方が多く、わが国では20~50歳女性の約20%が鉄欠乏性貧血なので、2000万人×0.4の400万人もいることになります。また、関節リウマチなどの慢性炎症に伴う貧血も多く、70万人程度はいると想定されます。更に、赤血球を作る造血ホルモンは腎臓でつくられるので、慢性腎障害に伴う貧血も、透析患者さんの数から推定すると30万人程度はいるでしょう。

輸血を必要とする貧血はどうでしょうか。これらは骨髄不全症ともいわれ、骨髄異形成症候群が1万人、再生不良性貧血が0.5万人程度です。よって輸血を必要としない貧血に比べると圧倒的に少ないといえます。

健診で貧血が見つかった場合は、そのままにせず受診してください。原因を調べて、それに合った治療を受けていただくことが最も重要です。

当院の乳腺甲状腺外科は全国で初めてこの名前を診療科に使用した由緒ある科です。診療科名にもあるように、対象の臓器は乳腺・甲状腺と副甲状腺になります。乳腺はあらゆる乳腺疾患(主として女性に最も多い乳がん)を専門的に、またチーム医療を形成し多職種で連携して診療にあたっています。甲状腺・副甲状腺はバセドウ病や橋本病などの内科疾患に加え、がんを含む腫瘍の診断・治療を当院で唯一対応しています。甲状腺腫瘍では経過観察のみで通院されている患者さんも多く、手術の必要性の判断を専門的に行っています。また手術を必要とする患者さんには、生活の質を落とさず、しかし根治を確実に行うように最先端の技術と知識を駆使し、満足度の高い医療を提供しています。

PROFILE

乳腺甲状腺外科のホームページはこちら

詳細はホームページをご覧ください。

https://h.kawasaki-m.ac.jp/data/dept_015/dept_s_dtl/



第47回

診療科のご紹介

乳腺甲状腺外科



乳腺甲状腺外科
(前列中央が紅林部長、左から2人目が田中部長)

